

ハーモニー

Harmony

第 87 号 2022 年 2 月 10 日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@bunken.co.jp

目次

新理事長挨拶	1
新理事・新監事挨拶	2
第29回学術集会報告(学会長・副学会長)	4
第29回学術集会に参加して	5
2022年度「研究助成金研究」の選定	6
第30回学術集会の日程及び会場の変更	6

トピックス	7
「教育未来創造会議」の設置	
「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」	
定時総会(代議員総会)の報告・理事会の報告	7
編集委員会より・事務局より	8
編集後記	8

一般社団法人となった 日本養護教諭教育学会の本格始動にむけて

新理事長 後藤ひとみ(愛知教育大学)

本学会が法人化して初めてとなる第1回定時総会(代議員総会)が昨年11月14日に開催され、理事として承認された後の臨時理事会で投票により理事長に選任されました。第IV期と第V期、第VII期と第VIII期の経験を活かし、一般社団法人としての取組みの充実・体制整備にむけて努力してまいりたいと思います。会員の皆様におかれましては一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

法人化後の初選挙で選出された代議員(原則として2021年10月～2024年9月の任期)は51名です。理事長は代議員の中から監事を推薦し、地域や職域を考慮して理事候補者を推薦できますので、監事2名と理事候補者7名を臨時理事会の議を経て代議員総会で提案しご承認いただきました。本紙では、法人第1期役員として私を含む理事17名と監事2名がご挨拶させていただきます。

第1回理事会(昨年12月18日)では「一般社団法人日本養護教諭教育学会の第1期事業の執行にむけて」と題した資料をもとに、1)一般社団法人になったことの再確認(総会で決議する事項、役員の仕事、理事会の職務)、2)2021年度事業計画の重点事項の確認、3)法人化を契機とした業務の執行について述べました。以下は3)の内容です。

まず、これまでの課題として、①会員数の減少、②会員との交流機会の不足、③会員の参加場面の不足、④会員への情報提供ツールの貧弱さ、⑤理事会中心の運営体制を挙げ、「会務の活性化」の必要性を総括しました。

さらに、今後に向けた対応として、①迅速で確かな事務局対応、②本会に関する広報・宣伝活動の活性化、③会員間の情報共有、④会員への情報提供、⑤子どもの育ちを支える養護教諭像の提示、⑥役員間の「養護教諭教育」に対する共通理解、⑦学会活動を支える委員会活動の活性化を挙げ、「執行体制の強化」の必要性を提案しました。

これらをふまえて、今期初年度となる2021年度は委員会活動の活性化を図りたいと思います。前体制は予算の都合で理事による委員会でしたが、Web会議であれば全国各地からご参加いただけます。そこで、各委員会の委員は理事1～2名を原則とし、代議員や会員の参加にウエイトを置いた構成にしました。

本紙トピックス欄で取り上げたように、Society5.0時代や予測困難な時代が到来する中、教育未来創造会議の設置、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方の検討等が進み、子どもたちや子どもの教育に関わる人たちが身体的・精神的及び社会的に健康(Well-being)で、よりよい未来へ向かう意志・意欲を有している状態(Will-being)を目指す動きもあります。今後も一般社団法人日本養護教諭教育学会の躍進にむけてご支援の程をお願い申し上げます。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 新理事・新監事挨拶 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

総務常任理事として

常任理事(総務担当) 大川尚子(京都女子大学)

総務常任理事として、法人化後の学会運営がスムーズに進むよう尽力していきたいと思っています。今期の総務委員会は、理事だけではなく、代議員や会員の皆様にも委員として活躍していただく予定です。今後とも、ご協力ご支援のほどよろしくお願いいたします。会員の皆様の忌憚のないご意見やご要望をお待ちしています。

教育職員としての養護教諭の学問確立にむけて

常任理事(学術担当) 鈴木裕子(国士舘大学)

引き続き常任理事として学術委員会を担当することになりました。学会の中心的活動のひとつである学術集会や会員の研究への支援を継続するとともに、これまで蓄積してきた一般演題領域区分の分析をふまえながら、養護教諭教育の分野確立をめざし、新しいメンバーとともに活動をしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

実践の分析と構造化を目指す編集委員会を

常任理事(編集担当) 山崎隆恵(北海道教育大学)

本学会が設立されて30周年を迎え、学会誌は25巻となりました。学会誌編集では養護実践を大事にする方向となっています。養護実践は様々な職務が絡みあっていて、著すためには職務の焦点化が必要で、その関係性と構造化の積み重ねが養護学の確立の礎と考えています。そこにつながる編集委員会の運営を行いたいと思います。

広報活動の充実を目指して

常任理事(広報担当) 塚原加寿子(新潟青陵大学)

今期、常任理事として広報活動を担当することとなりました。会員の皆様からご協力いただきながら、学会からの情報や養護教諭教育に関わる情報を発信していきます。ぜひとも様々な情報やご意見をお寄せください。会員の皆様に役立つ情報を発信していきたいと思っています。また、メールでのタイムリーな情報発信も目指しております。ぜひ、メールアドレスの登録もお願いいたします。

気持ち新たに

理事 小林央美(弘前大学大学院教育学研究科)

COVID-19の流行は人々の中に不安を広げています。不安の中にあるといつの間にか大きな声に依拠し、自己の考えを持たない思考停止の状況に陥ります。学会は真理の追究をし、様々な事象におけるエビデンスを明確にして人々に根拠ある思考を促す機能を持つと思います。本学会の理事は通

算12年目となります。非力ながら気持ちを新たに頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

不易流行をあらためて考える

理事 植田誠治(聖心女子大学)

任意団体であった第Ⅲ期(2003年度～2005年度)に、研究活動担当理事を務めさせていただいて以来の就任となります。学会名や学会誌の英語表記や定義づくり、日本学術会議への登録作業、養護教諭の専門領域に関する用語の解説集づくりなど、学会としての基盤づくりに関わらせていただいたことを懐かしく思い出します。パンデミックの経験により新しいライフスタイルが求められる中、あらためて学会としての不易流行を考える時かと思っています。他学会や他団体との連携・協力を踏まえながら。

新たな感染に備える力(の教育)

理事 鎌田尚子(女子栄養大学(名誉教授))

1963年4月東京都に就職後、60年(現職28年、養成32年)児童生徒、教育職員、保護者、地域、学生、大学教授等と共に健康の保持・増進に関わった。2020年1月からのwithコロナ、オミクロン感染は、養護教諭の感染予防教育と健康管理を評価している。マスク・手洗い・三密防止の子供や市民の実践は世界をリードした。しかし、行政関係の危機管理のリーダーシップ・疫学判断は、高校生レベル以下である。「疫学や人権」(必修2単位)を18歳人口に設置すべきである。

身の引き締まる思いで

理事 工藤宣子(千葉大学)

現職時代(2003年)に入会し、今期初めて推薦理事、そして学術委員会を担当させていただくことになりました。改めて「養護とは」という命題に向き合うことになるのでないかと、身の引き締まる思いであります。

現職を離れてちょうど10年を過ぎましたが、当時の気持ちを忘れず、また、会員の皆様と共に学ぶ姿勢を忘れず、努めてまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

理事就任にあたって

理事 竹鼻ゆかり(東京学芸大学)

今期の理事を務めることとなりました。どうぞよろしくお願い致します。今まで本学会が培ってきた実績をさらに充実・発展できるよう微力ながら努力したいと思います。加えて、社会の変化に応じた養護教諭養成の在り方について考え、発信していきたいと思っています。多くの会員の皆様と交流できる機会が持てますことを願っております。

養護教諭教育のこれから

理事 浅田知恵（愛知教育大学）

今年度より総務委員会の理事を担当させていただきます。愛知教育大学は、私の母校でもあり、50年以上にわたって養護教諭を養成してまいりました。養護教諭としての経験を踏まえてその養成に関わる中で、改めて「養護教諭」の教育を問い続ける必要性を感じています。学会活動の運営を通して、養護教諭に関わる研究やその発展に尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

現場感を学会運営に活かしたい

理事 加藤晃子（学校法人滝学園滝中学校滝高等学校）

一般社団法人に移行する期に会計を務めさせていただいておりました。今期は総務委員会を担当いたします。現職養護教諭であることを強みに、養護教諭として持っている「現場感」を学会運営に活かしたいと考えています。現職養護教諭の仲間たちが、学会をより身近なものと感じ、共に学んでいくことが出来るよう、努めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

理事就任に際して

理事 外山恵子（愛知県立日進西高等学校）

コロナの感染状況が、学校教育を大きく動かし、児童生徒の心身に影響を及ぼしていることを実感しています。

さて、本学会が一般社団法人化したこの度、理事を拝命いたしました。これまでは会員として、多くのことを学ばせていただきました。本学会のさらなる発展のために全力を尽くすことで御恩返しをさせていただき、会員の皆様のご期待に添えますよう努力いたします所存です。皆様のご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

学会法人化による重要課題の解決に向けて

理事 徳山美智子（元大阪女子短期大学）

今、「令和の日本型学校教育」の理念の浸透に向けて養護教諭の教育機能が強く求められています。その求めに応えるために、法人化された学会活動の重要課題として会員の皆様の要望を正しく理解すると共に理事会の運営や各委員会の活動を可視化して会員相互の絆を作ることに務めます。そして養護学体系化と養成カリキュラム改革を会員の切望と受け止め達成に向けて取り組みます。

今後の学会発展に向けて要望や意見をお寄せください。

ハーモニーの担当をさせていただきます

理事 西岡かおり（四国大学）

今期、初めて推薦理事として理事を務めることとなりました。また、編集委員としてハーモニーを担当させていただきます。

ます。年3回のハーモニーを会員の皆様にお届けできるように努めてまいります。初めての事ばかりですが、学会活動を通してよく学び養護教諭のこれからについて考えていきたいと思っております。会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

養護教諭の未来のために

理事 宮本香代子（安田女子大学）

中四国地区の選出により理事を引き受けました。どうぞ宜しくお願いいたします。養護教諭を目指す学生が、自己の養護教諭像を明確にし、現代的健康課題に取り組む力量と学校における求められる実践力の養成に取り組んでいます。研究のみならず、学校現場の実践者に有益な研究等が示せる学会でありたいと考えます。本学会がその取組を多角的多面的に実践と研究が往還できる役割が果たせるよう努めてまいります。

学び続ける養護教諭であるために

理事 松田芳子（熊本大学）

この度、新理事として学会の仕事に携わらせていただくことになりました。上記テーマで、2015年に熊本で学術集会を開催させていただきました折は、皆様にお大変お世話になりました。常に「学び続ける」ということを心しながら、学会活動の推進に微力ではありますが、努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

監事としての職責を感じて

監事 河田史宝（金沢大学）

法人格を得た学術団体「一般社団法人日本養護教諭教育学会」となったの役員となります。監事という役職は初めての役割ですが、職責を果たせるように努めたいと思います。まずは、理事会議事録の確認や会計監査報告等が十分にできるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

法人の監事として

監事 古賀由紀子（九州看護福祉大学）

学会は一般社団法人となって動き出しました。今回、法人の監査を仰せつかりました。監事の職務は、「理事の職務の執行を監視し、法令で定めるところにより監事報告を作成すること」となっています。職務の責任の重さを感じていますが、これまでの理事としての経験も生かし、学会がこれまで以上に発展していくよう監事としての職責をしっかり果たしていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

第29回学術集会(オンライン学会)のご報告とお礼

学会長 貴志知恵子 (徳島文理大学)

日本養護教諭教育学会第29回学術集会は、2021年11月27日(土)、28日(日)に開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の流行が十分に収まらない状況にあり、徳島文理大学よりWebによるオンラインで行いましたが、参加者405名と多くの方にご出席いただき、誠にありがとうございました。その内、173名の学生の皆様の参加があり、頼もしい若者の研究志向や今後の実践力の向上につながることを期待されます。オンライン学会のメリットでもありますが、参加者が全国各地からアクセスしてくださったことも特徴的でした。

メインテーマは「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」としました。新興感染症や自然災害など混沌とした先の見えない状況の中で、子ども達が生涯にわたって健康・安全に生きていくためには、自ら率先して行動することや仲間と協力して課題解決していくことが強く求められます。そのために子ども達は、主体性や探究心を持つことが不可欠であると考えます。そこで、本学術集会においては、養護教諭の職務において子どもの主体性・探究心を育てる養護実践をどのように考え、どのように行うかについて議論し、その可能性を探ることで、全ての子ども達の健康レベルの向上を目指すこととしました。

学術集会初日(27日)の最初のプログラムは、「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のこれまでとこれから考える事」と題し、学会長講演をさせていただきました。これまでの実践を振り返り、そこから見えてきたものを整理し、今後の養護実践の方向性について考えました。特別講演は、「歯周病が全身に及ぼす影響～デンタルクリニックの報告から～」と題し、日本歯周病学会指導医のエスデンタルクリニック篠原啓之氏にご講演いただきました。

シンポジウムは、メインテーマである「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」を取り上げました。養護実践の中の何が子どもの主体性を育み、それがどんな探究心を育てたのかについて深く掘り下げられました。シンポジウムの先生方は、半年前よりオンラインで何回も討議を重ねられ、当日はコーディネーター、シンポジストの5名の方全員が遠路、徳島文理大学まで足をお運びくださり、前夜より準備をされ、当日はフロアの方を交えてテーマをより深く掘り下げられました。とても実りの多いシンポジウムであったのではないかと感じました。

2日目(28日)のプログラムは、午前中に一般演題(口演21題)、研究助成金研究発表1題を3会場にて実施しました。

今回は、健康教育に関する養護実践について発表された演題が多かったことが特徴的でした。

午後は、教育講演「健康と適応を守る予防教育の理論と進め方」について鳴門教育大学特命教授の山崎勝之氏にご講演いただきました。演者の長期にわたる学校予防教育の進化と深化がよく分かったとの声が聞かれました。続いて、課題別分科会では、3会場に分かれてそれぞれ発表の後、熱心な討議がなされました。学会全体の進行や運営についてはメディア学科教員や学生さんの協力が有難かったと言えます。一方、課題もありました。出来るだけ経費を抑えようと業者に頼らずにシンプルな学会を心掛けたため、参加申し込みや抄録集送付の際に滞りがありましたが、皆様のご協力とご支援のもと2日間のオンライン学会を無事に終えることができました。最後になりましたが、本学術集会の開催に関わっていただきましたすべての皆様のお陰で開催できたことに深く感謝申し上げます。

第29回学術集会を終えて

副学会長 竹内理恵 (徳島文理大学)

この度、2021年11月27日(土)、28日(日)に、徳島文理大学において、日本養護教諭教育学会第29回学術集会(以下集会と略す)を開催いたしました。前回に続いてのオンライン開催でしたが、開催地への移動がなく、自宅等からの参加が可能であったことから、四国地域からの参加はもとより、北海道から沖縄県までの全国各地から合計405名の方々に参加いただきました。

今回のオンラインでの集会は、通常の学術集会と同じように開催することを目指しましたが、ポスター発表やランチョンセミナーは未実施となり、口演発表のみとなりました。口演発表は、例年同様の21題の発表があり、活発な意見交換が行われました。また、シンプルで無駄がなく、深い学びができる集会にしたいと実行委員一同知恵を出し合って、全てを手作りで運営いたしました。そして、参加申し込みの手続きや抄録集の発送作業などは、実行委員が行ったためにいくつもの不備があり、参加者の皆様にご不便やご心配をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

しかしながらアンケート結果を見ると、集会全体としては特別講演、シンポジウム、教育講演、課題別分科会に対して、皆様方からの好意的なご意見を多数いただき、実行委員一同感慨深い思いでした。

学会員をはじめ多くの皆様の温かいご支援とご協力をいただき、無事に開催できましたことを深く感謝申し上げます。

学術集会アンケート結果

集会のアンケート調査へのご協力ありがとうございました。

Webでの回答で115名の方から回答をいただきました。貴重なご意見を抜粋して報告いたします。

1 会員の種別 (n=115)

会員：44人、会員外：23人、学生：48人

2 本学術集会を知った手段 (n=115)

日本養護教諭教育学会誌：14人

いつも参加している：13人、知人の紹介：12人

この集会のチラシを見て知った：11人

機関誌「ハーモニー」：6人

学会ホームページ：6人、雑誌等を見て知った：3人

講義・授業で紹介：47人、その他：3人

3 興味を持った内容 (複数回答)

一般演題 (口演発表)：64.3%、特別講演：53.0%

シンポジウム：49.6%、教育講演：47.0%、

課題別分科会：44.3%、学会長基調講演：36.5%

学会助成金研究発表：19.1%

4 集会について

・多くの先生方のお話を聞くことができ、シンポジウムの後にブレイクアウトルームで個別に協議を重ねられたことがとても勉強になりました。

・学会に特化した手作りで、創造的な、工夫された無駄がないと実感できる素晴らしい企画でした。実行委員の和と輪が随所で読み取れました。

・学生の立場で参加させていただきましたが、現場の先生方の実践や専門的な内容のご講演を聞くことができ大変勉強になりました。

・コロナ禍で久々の学会参加でしたが、大変刺激になり、学びも深まりました。

5 運営について

・司会進行がとてもスムーズで、タイムスケジュール通りに運営されていてすごいと思いました。

・対面で実施できるようになってもハイブリットでオンラインも残してもらえると、参加者の幅が広がってよいと思います。

・一部の方がブレイクアウトルームに入室できなかったようで、そこは残念でした。オンラインは操作に慣れていないと難しいところがありますね。

6 次年度の集会に希望すること

・新しい時代の学校教育 (令和の日本型学校教育) の中で養護教諭はどうあるべきか。

・養護教諭とICT

・今回の教育講演のテーマ「予防教育」がとてもよかった。予防教育のワークショップなどをやってほしいです。

・保健室経営のデジタル化について

・心の健康について学びたい。

第29回学術集会に参加して

八戸しおり (札幌市立西白石小学校)

新型コロナウイルス感染症が流行してから、学会や研修会などがオンライン形式で開催されることが多くなりました。私自身もオンライン研修会には何度も参加したことがありましたが、オンラインでの学術集会は初めての参加でした。

学会長講演では、貴志先生ご自身の実践と「子どもたちが未来をたくましく生きていくために必要な主体性や探究心を育む養護実践のあり方」を聞くことができ、たいへん貴重な学びの時間となりました。自分自身が取り組んでいる実践を見つめ直し、子どもたちが自ら「こうしてみたい!」という気持ちを引き出せるような内容にブラッシュアップしていきたいと思いました。

シンポジウムではオンライン上でもグループワークを行うことができ驚きました。私は初めて使う機能だったため戸惑ってしまい、限られた時間を有効活用することができず、反省した1日目でした。

2日目は口演発表ということで、たくさんの先生方の実践をお聞きすることができ、とても良い刺激をいただきました。どの発表も興味深い内容ばかりで、全てを聞けないことがとても残念でした。

オンライン学会に参加してみて、また、今までに参加した研修会を踏まえて、今後は対面とオンラインどちらでも参加可能な学会や研修会が増えていくと、私自身とても嬉しく感じます。また、時間帯が重なっているような発表などは一定期間見逃し配信のような形で参加した皆さんが見返す機会があると、より充実した学びを得ることができるのではないかと思います。

30周年となる次回の学術集会は、北海道札幌市で開催します。貴重な周年記念を札幌市で迎えられること、実行委員として携われることをとても嬉しく思います。まだまだ新型コロナウイルス感染症の動向に注意しなければいけない状況ですが、対面形式で行えるよう準備を進めているところです。北海道らしい冬の寒さや雪を感じられる時期の開催ですので、たくさんのご参加をお待ちしております。

最後になりますが、第29回学術集会を企画運営してくださった皆様に深く感謝申し上げます。



第29回学術集会に参加して

柳川里紗(徳島市川内南小学校)

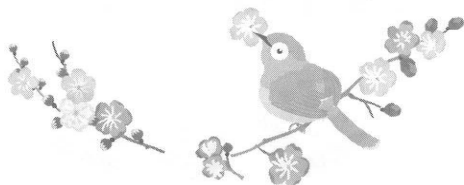
日本養護教諭教育学会第29回学術集会に参加させていただきましたこと、貴志知恵子学会長をはじめ、開催に尽力された皆様に厚く御礼申し上げます。

オンライン学会への参加は私自身初めての経験であり、一般演題での発表もあったため緊張していましたが、充実した時間を過ごすことができました。

今回、発表の機会をいただいたことで、日々の取り組みを振り返ることができたとともに、その取り組みの効果等の検証にもつながり、大変勉強になりました。取り組みを始めてから研究としてまとめるまでの期間が短く、客観性に乏しい発表となってしまいましたが、参加者の先生方からご意見をいただけたことで、自分に足りない部分に気付くことができたとともに、研究の進め方やまとめ方など、勉強になることばかりでした。今後も、本学会のメインテーマでもある「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践」につながるよう、PDCAサイクルを繰り返しながら取り組みを継続するとともに、データを積み上げ、客観性のある養護実践に繋げていきます。そのためにも、自分自身が主体性と探究心をもって取り組んでいこうと強く思いました。

学術集会1日目には、貴志知恵子学会長が、学会長講演の中で「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践をどのように考え、どのように行うかについて議論することで、それが全ての子ども達の健康レベルの向上に繋がると確信している。」と話されました。子ども達の健康を支えていくために、自分自身が積極的に健康課題解決に向けて取り組むとともに、他の養護教諭の先生方や教職員、保護者、保健委員会児童等と議論を続けることの大切さに気付くことができました。このように、考えることができたのも発表者として取り組んできたからです。ついつい受け身になりがちですが、これからも様々なことに前向きにチャレンジしていける自分でありたいと思います。

本学会を通して、なかなか交流する機会がない他都道府県の先生方とも意見交換ができたとともに、たくさんの研究に触れることができ、貴重な時間を過ごすことができました。今後も、学会等への参加を通じて、先生方との繋がりを長く続けていければと思います。



2022年度「研究助成金研究」の選定

学術担当常任理事 鈴木裕子

例年選定を行っている研究助成金研究の2022年度の対象につきましては、2020年度第4回理事会にて審議を行い、「教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」(研究代表者:平井美幸会員)を選定し、2021年度定時総会(代議員総会)にて報告いたしました。

この研究は、養護教諭が学校保健領域のミドルリーダーとして職能成長が期待されていることに着目し、教員育成指標を基に評価基準を作成して調査を行い、ミドルリーダーコンピテンシーを導出し検証しようとするものです。成果を行政研修等に应用することにより、養護教諭教育(養護教諭の資質・能力の向上)につながる成果が期待されます。

これまでの研究助成金対象研究の成果は、日本養護教諭教育学会誌に研究論文として順次掲載され、養護教諭教育に関する研究に貢献しています。直近では、第25巻第1号に「養成機関における『養護教諭の複数配置』に関する授業研究」(研究代表者:鈴木薫会員)が掲載されました。

また現在、2021年度研究助成金対象研究として「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援—新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに—」(研究代表者:坂井三代子会員)の研究が進められています。その他の助成金研究の成果も順次公表できるよう学術委員会として引き続き支援してまいります。

次期助成金研究は、2022年9月10日締切で申請を募集する予定ですので、ぜひご検討ください。お問い合わせは下記まで。

国士舘大学文学部 鈴木裕子

メールアドレス suzukiyu@kokushikan.ac.jp

第30回学術集会の日程及び会場を変更しました

●日程:2022年12月3日(土)~4日(日)

●会場:札幌市教育文化会館

(札幌市営地下鉄東西線西11丁目駅[1番出口]から徒歩約6分)

諸般の事情で変更しました。よろしくお願いたします。

トピックス

理事長 後藤ひとみ

1. 「教育未来創造会議」の設置について

令和3年12月3日に、教育再生実行会議の後継となる教育未来創造会議が設置されました。その趣旨は、「我が国の未来を担う人材を育成するためには、高等教育をはじめとする教育の在り方について、国としての方向性を明確にするとともに、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進する必要がある。このため、「教育未来創造会議」を開催する。」というものです。

同日、「教育再生実行会議の開催について」（平成25年1月15日閣議決定）は廃止され、廃止前の教育再生実行会議が行った検討等（平成25年2月26日の第一次提言から令和3年6月3日の第十三次提言まで）については、教育未来創造会議に引き継がれることになりました。

第1回会議が昨年12月27日に開かれ、「我が国の未来を担う人材の育成の在り方」について議論すること、論点は①未来を支える人材を育む大学等の機能強化、②新たな時代に対応する学びの支援、③学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備であることが説明されました。その後、令和4年1月24日に第1回教育未来創造会議ワーキング・グループが開かれましたが、子どもたちに直結するような支援や課題解決の話は出てきていません。教育の未来の創造とは何か。今後もしっかりと注視する必要があります。

2. 「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」について

みだしの会議が、令和3年8月20日に「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について—Schools for the Future「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する—」（中間報告）を公表し、年度内の最終報告にむけて審議を重ねています。

審議の目的は、「Society5.0時代」や「予測困難な時代」の到来を受けて、1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、新しい時代の学校施設の在り方を議論することです。

養護教諭にとって重要な学校施設である保健室について、中間報告では次のように記述しています。「○保健室について、休養や処置のために柔軟に対応できる面積を確保し、健康に関する情報を発信するなど、健康教育の中心となるようにするとともに、児童生徒のカウンセリングのために、落ち着いた空間を確保することが重要である。また、児童生徒の出欠状況や健康観察、健康診断票、保健室来室管

理等の保健系機能を実装した統合型校務支援システム等において情報機器や情報ネットワークを活用できる環境を計画することも重要である。」

本文37ページの中の僅か6行の記載ですが、施設整備指針の表記とは少し異なっています。本年1月18日に開催された同調査研究協力者会議において、委員として最終報告でも保健室の記載がなされることは確認しましたが、学校施設の未来像の中で保健室の未来像をどう描くかは本学会が取り組むべき重要課題であると思います。

定時総会（代議員総会）の報告

一般社団法人日本養護教諭教育学会の第1回（2021年度）定時総会（代議員総会）を下記にて開催し、議案は原案通り承認されました。詳細は、学会誌に掲載します。

1. 日 時：2021（令和3）年11月14日（日）13：30～15：00（第1回臨時理事会のため一時中断）
2. 場 所：Zoomによるオンライン開催
3. 出席者：代議員51名中49名、貴志知恵子学会長（議長）

【審議事項】

- 1) 2020年度事業報告(案)、2) 2020年度決算報告(案)、3) 2021年度事業計画(案)、4) 2021年度予算(案)、5) 理事の選任、6) 監事の選任、推薦理事の選任

【報告事項】

- 1) 規程等の改正、2) 2022年度研究助成金対象研究の選定、3) 各委員会の活動、4) 第30回学術集会の開催、5) 第31回学術集会の開催地

理事会の報告

理事会を下記のように開催しました。議事録は、学会誌に掲載します。

○2020年度第4回理事会

1. 日 時：2021年10月31日（日）13：00～14：50
2. 場 所：Zoomによるオンライン開催
3. 出席者：理事13名、高田恵美子（選挙管理委員会委員）、監事2名、幹事1名
4. 議 題

【審議事項】

- 1) 第1回（2021年度）定時総会（代議員総会）の議事等、2) 規程等の改正、3) 代議員及び理事候補者の選挙結果と理事長候補者の選出、4) 学会事務局関連業務の委託契約、5) 2022年度研究助成金対象研究の選定、6) 「養護に関する研修会」の第2回・第3回の開催、7) 学会設立30周年記念事業の準備に係る経費、8) 第31回学術集会（2022年度）の開催地

【報告事項】

- 1)各委員会の活動, 2)第29回学術集会の進捗状況,
- 3)第30回学術集会

○2021年度第1回臨時理事会

1. 日 時:2021年11月14日(日) 14:10~14:25
2. 場 所:Zoomによるオンライン開催
3. 出席者:理事9名、監事2名
選挙管理委員:石田妙美、菊池美奈子、高田恵美子、森千鶴 大川尚子(記録)
4. 議 題

【審議事項】

- 1) 理事長選任の件, 2) 監事及び推薦理事選任の件

○2021年度第1回理事会

1. 日 時:2021年12月18日(土) 17:00~19:15
2. 場 所:Zoomによるオンライン会議
3. 出席者:理事16名、監事2名
4. 議 題

【審議事項】

- 1) 常任理事の選定, 2) 委員会体制, 3) 2021年度事業計画の実施, 4) 新事務局(国際文献社)との契約, 5) 第29回学術集会(徳島)の一般発表における投稿奨励研究の選定, 6) 学会設立30周年記念行事の準備体制, 7) 学術集会の申し送り事項

【報告事項】

- 1) 2021年度代議員総会に関する「総会報告」, 2) 第29回学術集会の総括, 3) 第30回学術集会の進捗状況, 4) 第31回学術集会, 5) 「理事、監事の変更」と「事務所の変更」に伴う変更登記申請手続き, 6) 日本養護教諭関係団体連絡会の調査

編集委員会より

投稿論文は増加の傾向にありますが、最近、図表がカラーで提出されることがあり、掲載の時に書き替えをお願いしています。学会誌は白黒印刷ですので、図の作成には、十分に配慮して下さい。

事務局より

●事務所の移転について(ご連絡)

すでにご報告済みですが、改めてご連絡いたします。
2021年10月(2021年度)より事務局業務は、(株)国際文献社に委託することになり、事務所は下記に移転しました。

<(一社)日本養護教諭教育学会 事務局>

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター
TEL:03-6824-9398 FAX:03-5227-8631
E-mail:jayte-post@bunken.co.jp

●会費の納入について

会計年度は、2020年度の移行特別措置(1年半)を経て、2021年度より10月1日~翌年9月30日の期間に変更となりましたので、入会・退会の手続き時期にご注意ください。

なお、年会費が2年分滞った場合は、入金が確認できるまで3年目の学会誌等発送を見合わせますが、その後の退会に際しましては、退会届が出されていなかったために発送しております2年分の会費は全額お支払いいただくことになります。

学会は、会員の皆様の会費によって運営されていますので、速やかな会費納入や変更届等の提出にご協力をお願いいたします。

●学会誌残部を販売します。

事務局の移転に伴い、既刊の学会誌を整理しますので、1冊2,000円(送料無料)で販売いたします。

第1巻~第4巻、第7巻、第8巻は残部が1~2冊です。申し込み順で対応させていただきます。

これら以外につきましては、各巻10冊程度を残していますので、お早めに下記までお申し込みください。

*申込期限:2022年3月10日(木) / 厳守

*申込方法:Eメール、またはFAX

Eメール:JAYTEjimu@yogokyo-yu-kyoiku-gakkai.jp

FAX:0566-26-2491 (旧事務局です)

編 集 後 記

(一社)日本養護教諭教育学会として、最初のハーモニーをお届けいたします。新しい役員の皆様のご挨拶や今年度の事業について掲載いたしました。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたまま、令和3年度も終わりを迎えそうです。会員の皆様と直接お目にかかり学会や研修が開催される日が来ることを願います。第87号からハーモニーの担当をさせて頂くことになりました。会員の皆様と繋がる「ハーモニー」を目指していきたいと思っております。(西岡かおり、山本訓子)